

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	7 国際交流 (研究科)
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流(国内外における教育研究交流)についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流(国内外における教育研究交流)を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況(院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 2012年度を目標に、海外交流協定校をアジアで一大学、欧米で一大学増やす。	→学術交流協定校数。	B	A	A	A	A
2. 外国人客員教員を常時招聘し、共同研究や授業科目担当を実施することで研究活動の国際化・高度化を図る。	→海外客員教員数、共同研究件数、共同研究成果の公表。	A	A	A	A	A
3. 国内外の著名研究者を招聘し、学術講演会、セミナーやシンポジウムを年間5回以上開催する。	→開催プログラム数、参加者数、内容の公表。	B	A	A	A	A
4. 2012年を目標に、後期課程在籍者、大学院研究員の留学件数、海外での学会発表件数を2割以上増やす。	→海外における学会発表の件数、留学者数。	A	A	A	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 国際交流委員会を中心に、海外有力大学との協定締結に向け、検討・交渉を行った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 北京第二外国語学院と南京大学との間で海外交流協定を結び、2011年度からダブルディグリープログラムの運用を開始した。また2012年度より湖南大学と新たに協定を締結した。以降、毎年度留学生を受け入れたり、共同主催の国際フォーラムにおいて本研究科の学生が発表を行ったり、国際共同指導プログラムのもと学生ならびに教員レベルでの活発な交流が行われたりなどの成果を上げている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2015年度より米国サンフランシスコ州立大学と交換留学に関する協定を結ぶ予定である。また中国人民大学外国語学院日語系との後期課程共同指導に関する協定を締結する予定である。	☆
		その他	☆

目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 当該期間中に、外国人客員教員(招聘A)を毎年度1名(計5名)、外国人客員教員(招聘B)を1名、外国人客員教員(招聘C)を3名を招聘した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 招聘Aの教員には、授業科目を3科目ずつ担当いただき、招聘BおよびCの教員は、本研究科教員と共同研究を行った。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 中国人民大学外国語学院との新たな協定に基づいて、研究者の招聘をさらに活発化させていく予定である。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 国際交流委員会を中心として、北京第二外国語学院、南京大学、湖南大学との海外交流協定に基づき、海外からの著名研究者の招聘に取り組んでいる。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 当該期間中に12回の学術講演会・セミナー・シンポジウムを実施し、いずれも活発な意見交換が行われ、本研究科の研究レベルが向上した。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2010年度以降も、学術講演会・セミナー・シンポジウムを定期的で開催しているものの、開催回数が年間5回を割り込んでいるので、より積極的な取り組みを目指す。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 国際交流委員会を中心として、北京第二外国語学院との海外交流協定に基づき、毎年1回の国際フォーラムを共同主催してきた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 上記の国際フォーラムにおける発表を含めて、2009年度は10名、2010年度は12名、2011年度は14名、2012年度は8名、2013年度は3名の学生が海外の学会にて研究成果の発表を行った。当初の目標は初年度においてすでに達せられており、昨年度は若干落ち込んだものの、高い水準で発表者数が推移している。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 本研究科から海外大学への留学生の増加を目指すべく、サンフランシスコ州立大学との交換留学に関する協定を締結し、2015年度より学生の派遣を開始する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【言語コミュニケーション文化研究科】			単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	1	1	2	2	3	3		
指標2	国際交流協定締結国数		国	1	1	1	1	1	1		
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		外国人留学生	正規	人	9	14	24	27	17	22	・※5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・特別学生を含む
			交換	人	2	3	4	—	—	—	・累計数 ・交換は正規以外とする。 ・大学院短期留学を含む
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	12.3	19.7	30.4	33.3	24.6	37.9	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	2.7	2.8	5.1	0.0	0.0	—	
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	1	1	1	1	3	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	0	0	0	0	0	・累計数 ・春・秋の合計	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)